

布佐中学校区「適正規模と学校のあり方」についての地域住民説明会 議事要旨

1 対象校：①布佐小学校 ②布佐南小学校

2 開催日時：令和3年11月27日（土）①10：00～11：15 ②13：30～15：10

3 説明者（我孫子市教育委員会）：教育長、教育総務部長、総務課長、学校教育課長、指導課長、指導主事

4 参加者数 2校合計 31人

5 主な質疑・意見の要旨

① 本件の主管部局はどこか？また、スケジュールは？

→ 学校の設置者は市であり、管理は教育委員会で行っている。学校施設個別施設計画や布佐地区適正規模検討委員会（仮称）については教育委員会。スケジュールについてはこれから検討を進めるところで、検討委員会についても来年度から2か年計画である。そこからもし、校舎建て替え等になると運用は5～6年後になる。

② 令和2年11月の市政懇談会で市長が施設一体型一貫校について具体的な構想の話をしていて驚いた。しかし実際はこれから計画を立てる段階だという。これは市長の話がただの草案であったのか、元々計画があったのが白紙化されたのか？アンケート内に出た意見について、市の見解がききたい。資料内の児童生徒数にて、1970年は今より児童生徒が少ないとあるが、個人的な感覚では今より多かった気がしている。

→ 市長は一つの選択肢として話したままで、具体的な計画についてはこれから検討委員会等で進めていく。アンケートでいただいた意見について回答することは、市としての立場を明確にしないと答えられないため難しい。今後必要に応じて回答していく。児童生徒数の感覚の違いについては、年代・地域によって差があるため実感と異なるのではないかと。

③ 少人数学級について、現在は35人学級の編成が進められているが、市の独自施策としてより少人数にしたり、少人数学級の推進を国へ提言することはないか？

→ 以前より、千葉県では国に先行して38人学級を進めていた。さらなる少人数学級については、35人学級での効果を検討して進めなければいけない。また、少人数学級の推進により全体の学級数が増えることとなるが、これには教員の数と質の確保が難しくなるとの問題もある。児童生徒の学習環境の向上を第一として検討を進めていく。

④ 学校の統廃合等については、子育て世帯の転入に影響があり、「まちづくり」に関する施策の一貫であるため教育委員会が行うべきではない。他事例では学区外就学の児童生徒を認めて在籍者数を増やしているものがあるが、布佐南小学校では行わないのか？

→ 「まちづくりに関する」とのことについては、ご意見として承る。布佐南小学校の人数を増やす方策については行ってこなかった。学区外就学については、布佐南小学校に限ったことではなく、条件を満たした場合について認めている。

⑤ 施設計画のなかで、布佐南小学校の敷地を活用した場合と、布佐小学校・布佐中学校の敷地を活用した場合の費用差はどうか？南小の方が敷地の広さや登校しやすさは優れているのではないか？

→ まず、現在の敷地にそのまま建替える場合は、現在の児童生徒数に合わせた新校舎を建築するため、コスト面の適正化が期待できる。布佐小学校・布佐中学校が基準となるのは、ハザードマップ等によるものであるが、各校の活用についても検討委員会にて検討していく。

⑥ 定めている適正規模は本当に適正なのか、現在の市内教育を見直すところから検証するべきでは？

→ 学校教育法施行規則による基準をもとに、教職員の確保など我孫子市独自の基準をもって適正規模を設定している。

⑦ ハザードマップでは布佐南小学校よりも布佐中学校の方が浸水深が深いため布佐小学校・布佐中学校を基準とするのは誤りではないか？布佐小学校へ統合された場合、南新木地区の児童では新木小学校に学区外就学する児童が増えるのでは。

→ ハザードマップについては最新の情報を基に検討していく。学区外就学については、仮に布佐小学校へ統合になった場合でも、そちらに通いたいと思えるような学校づくりをしていく。

⑧ 布佐南小学校は、小規模校のため先生が目が届いており、地域住民にも支えられていると感じる。また、検討委員会は市内全域に係る問題と考えている。人選等の詳細はどのようになっているのか、公募は行わないのか？

→ 小規模校でのデメリットを最小化し、メリットを最大化できればよいが、施設老朽化等の問題もある。その中で児童生徒にとって一番よいものを常に考えている。検討委員会については、次年度からの実施を計画しているが詳細については未定である。